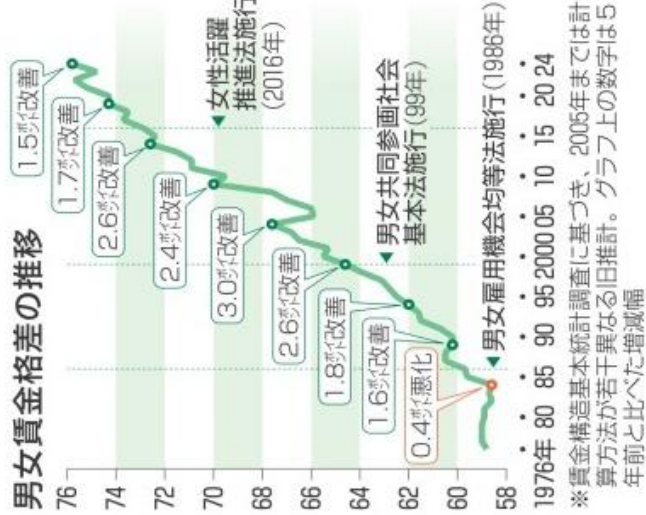


男女賃金格差の推移



1986年の男女雇用機会均等法施行から4月で40年。24年の男性の月額賃金は27万5300円で依然9万円近い差がある。根強い性

フルタイム労働者の2024年の月額賃金について、男性を100とした女性の指数は75.8で、5年前から縮まった差が1.5ポイントに縮まったことが14日、共同通信の分析で分かった。女性の賃金が男性に追いつく動きが近年弱まっている。管理職に占める女性の割合が伸び悩んでいることが背景にある。都道府県ごとに調べると、東海や北関東で男女の賃金格差が顕著だった。（2面に関連記事）

5年で改善1.5ポイント

女性管理職 伸び悩み

同志社大の川口章教授（ワークライフバランスとジェンダー平等）は女性管理職の伸びに停滞感があり、賃金の低さにつながっていると分析。「賃金格差は改善しているがペースが遅い」とし、今後数十年間は欧州並みの平等な社会の

厚生労働省の賃金構造基本統計調査を基に分析した。5年間で縮まった男女間の格差は1999～2004年に3.0ポイントに達した。04～09年は2.4ポイント、09～14年は2.6ポイント、14～19年は1.7ポイント、19～24年は1.5ポイントだった。14年以降の10年間の動きが鈍化した。

別役割分業意識を嫌って女性性がAに流出する問題もある。ジェンダー平等は喫緊の課題で、早急な対策が必要だ。

参画の担当者は「早く全国に追いつきたい。けん引する形になるのが理想だ」と語った。

各都道府県で格差は縮まりつつあるが、順位変動は乏しい。愛知県の男女共同参画の担当者は「早く全国に追いつきたい。けん引する形になるのが理想だ」と語った。

格差が最小なのは沖縄の鳥取、島根、徳島が並ぶ。県内の所得水準が比較的D

管理職に占める女性の割合が低い地域が多かった。C

が盛んで所得水準はC

重だった。茨城、愛知、栃木、静岡が続いた。製造業

B

賃金格差は指数の数値が

どまった。

9%。部長は9.8%にと

全国の女性課長比率は15.

内閣府によると、24年の

実現は難しいと予想する。

上の記事を読んで、下の問いに答えましょう。

1 男女賃金格差が縮まらない理由を本文中から解答欄に合わせて抜き出しましょう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

の割合が伸び悩んでいるから。

2 空欄A～Dに入る言葉を次の①～⑥ から選んで、記号で書きましょう。

①地方過疎地 ②大都市圏 ③大きい ④小さい ⑤高 ⑥低

A	B	C	D
---	---	---	---

NIEワークシートのこたえ（2026年2月17日公開）

◆ワークシート「男女賃金格差縮小鈍る(社会)」
2026.2.15付 朝刊 1面 解答

1 管理職に占める女性

2 A ② B ④ C ⑤ D ⑥